

式 辞

新潟食料農業大学への入学おめでとうございます。

私たち教職員および在学生は、皆さんを心から歓迎します。そして、今後は、「自由」、「多様」、「創造」と、この大学の建学精神を忘れずに、有意義で、実り多い学生生活を送られるよう期待しています。

さて、この一年余り、「新型コロナウイルス感染症」のパンデミック下で、皆さんは、さぞや、制約の多い、かつ厳しい準備の時期を過ごされてきたことであろうと推察します。

世界全体でも、多くの感染者、死亡者が発生している状況ですが、ウイルスとの関係では、現在のコロナ禍が収束したとしても、地球環境の変化、グローバル化の進展状況の下では、いつ再度の襲来があってもおかしくありません。常日ごろからの備え、医薬品や治療機器、病院のベッド、水、食料などの供給・確保を怠ってはなりません。

そして、これからの社会構造は、大きく変化してい

くことでしよう。これから皆さんが学ぶ「食」の面でも、例えば、特定の国のみに依存する資材供給とリスクの回避、宅配やテイクアウトの増加など消費行動の多様化、長く・広いフードチェーンだけではなく身近な地域内での循環の重視といった動きが見られます。これまでの経験と反省の上に立って、こうした変化への柔軟・的確な対応が可能となるように、新たな生活の在り方を探る必要があると考えます。

大学における学びという点でも、同じことが言えます。新潟食料農業大学では、慎重な新型コロナウイルス感染症対策を通じて教育・研究、地域活動と感染防止の両立を図ってきましたが、それでも、昨年度前期の講義などはオンラインが中心になりました。確かに、オンラインには便利な面がありますが、相互の理解や連携、交友関係の構築、地域での活動などは対面でなければ進まないことも、あらためて確認されています。ポスト・コロナの「新しい日常」（ニューノーマル）というものは、おそらく、この両者の長所を生かしつつ進む「ハイブリッド型」へと変わっていくものと考えます。

いま私たちは、幸い、「生かされて、生きて」います。しかし、将来に向っては、流されて生きるのではなく、「より積極的な人生」を過ごすため、自分で意識し、充実感を確かめながら「生き抜いていく」としっかりと心に据えて、自らの道を進むことを強く望むものです。

本年、新潟食料農業大学は、皆さんを迎えて、一く四年生までの全学年が揃い、大学としての完成年度に入りました。しかし、立ち止まることはしません。地域の知の拠点として「新潟食料健康研究機構」の活動がスタートしていますし、2022年4月に大学院修士課程を開設すべく申請手続きを進めているところで。誰からも期待される「食の総合大学」へ着実に前進を続けていきます。

私たちは、人間の生命（いのち）と健康の源である「食」と「農」、そして、くらしと営みの場である「地域社会」を健全に発展させる上で重要な社会基盤の充実を目指し、その教育・研究分野における役割を果たすことを第一として取り組んでいます。先日、ある新聞に、「野に出でよ！本物に学べ」と題した私の寄稿が掲載されました。どうか、皆さん、先輩たちと同様に、

大いに地域社会に出て、交流し、学んで、提案などをしてください。一年生の基礎ゼミで学ぶ「胎内三八市」への出店はその始まりです。「地域とくらしに役立つ学問」こそが、大学の究極の目標です。

結びになりましたが、この大学に学ぶことでさらに大事なのは、ここで友人を作り、地域の方々とも交流し、仲間の輪を広げることです。

「星の王子さま」の中で、サン・テグジュペリは、「どんなことも、もとは小さな芽から始まる」、「この世のなかにまったく同じものなんてない」、「本当に大事なことは目には見えない、心で探さなければならぬ」、「忘れてはいけないことは、人と特別のつながり・絆をつくることだ」と言っていますが、そのとおりだと思います

どうか皆さんも、「新潟食料農業大学の友こそ生涯の友」といえるような友人を作り、悔いのないキャンパスライフを大いに楽しまれますよう心から願っています。

二〇二一年四月一〇日

新潟食料農業大学学長

渡辺好明